

JWTC NEWSLETTER

Vol.29 No.2 August 2009

■ 2009年度 第1回勉強会 ■

夢を実現する自分に出会う方法

2009年6月2日 講師：鶴岡 秀子 氏 (ザ・レジェンド・ホテルズ&トラスト株式会社代表取締役 CEO)



「一人で20人分売り上げた」、様々な著書、講演会も支持者が多く、伝説のホテル「ザ・レジェンド・ホテルズ&トラスト株式会社」の代表取締役CEO、などの予備知識に、ご本人そのものが『伝説』の存在なのでは、と思いつつながら、なぜか百戦錬磨の女傑を思い描いて勉強会に参加しました。

当日、少し遅れて会場に入ると、スッキリとスーツを着こなした鶴岡さんが、滑舌も爽やかに、元気いっぱい講義の真っ最中。輝く笑顔、張りのある声。そして何より想像をはるかに超えた若い女性でした。このパワーこそ、彼女が目指す目的に向かい、スパイラルの中心となって周りをも巻き込み、成功への手掛かりを作ってきた原動力となっていることに気付いたのは、講演も半ばにさしかかった頃でした。

とても印象に残ったのは『うさぎと亀』の話で、「なぜ亀は勝ったのか」「なぜうさぎは負けたのか」ではないところがミソです」という問いに対する答えが「それは、亀がひたすらゴールすることをフォーカスしていたから」というもの。

目的をどこにフォーカスするかによって、その達成度、達成先が決まってくるので、フォーカスする先を間違えると、自分が期待する結果をなかなかうまく生み出すことができないばかりか、得られるべき結果からどんどん逸れていってしまうというのです。更に恐ろしいことに、頭の回転の速い人、仕事の手早い人は、間違った方向であっても誰よりも早くその結果へ到達してしまう危険性も高いのだそうです。

鶴岡さんは、子供のころから「起業家になる」と決めていたそうで、ご両親も「他人と比較するのではなく、自分軸を持って自分らしい発想をするように」と育ててくださったとのこと。男女の区別なく、自分の子供の将来あるべき姿を見据えた、革新的な考え方を持ったご両親の下で育てられたからこそ、そういった発想が生まれたのでしょう。

現在手掛けておられる「伝説のホテル」についての映像（ナレーションは鶴岡さんご自身）は、鶴岡さんたちが求める事業のコンセプトがよく伝わるものでした。

(伝説のホテルのホームページ <http://legendhotels.jp/dream/>)

宿泊客の快適な時間と空間の創造とともに、「単なるホテル事業にとどまらない『経済性のあるリターン』と『社会性のあるリターン』を同時に達成できる事業を構築する」という、もはや事業理念である鶴岡さんの夢そのものがそこに花開きつつあるのだな～と感じました。

とにかく並の人ではありません。講演を聴いて、まねして明るく前向きに振る舞ってみても、すべてに感謝して暮らしてみても、私は絶対に“鶴岡さん2号”にはなれないと確信しながら、懇親会のワインで並の人生に乾杯しました。

近藤多津子 エムオーツーリスト

◆参加された皆様のご感想◆

- 「天国体質」「素直」「感謝」。これからもこの言葉で、数々の事を乗り越えていける勇気をいただきました。 田中 映子
- とても面白く楽しく聞かせていただきました。前向きな話は、晴れ晴れとする気持ちになり、パワフルで元気をもらいました。 佐々木 みどり
- パワフルでハッピーな話をたくさんしていただき、自分もとても幸せな気持ちになりました。特に自分が変われば世界が変わる、というのは最近実感していることですので、共感いたしました。ホテルもぜひ泊りに伺わせてください。(ビジター)
- 「本番共有力」「天国体質」「ウサギとカメ (FOCUS)」など、本当に共感できるお話が盛りだくさんで感動しました。本日参加したのは「仕事で女性としてイキイキと働きたい！」という動機からでしたが、お話は仕事だけでなく、プライベート(恋愛?)も含んだすべてにあてはまると思いました。(ビジター)
- とても明るく分かりやすく、平易な言葉で心の奥にまで響いてくるお話に感動しました。このような時代だからこそ、伝説のホテルは実現し、多くの人々に潤いを与えていくとしたいです。そんなホテルですね!! 応援しています。(ビジター)



2009年度 親睦会

名園散策 &

ベテランバスガイドと行く 下町ドライブ



2009年6月20日、『名園散策&ベテランバスガイドと行く下町ドライブ』と銘打って、私たちJWTCのメンバーとビジター合計28名は、まず国指定特別名勝「六義園」へ向かいました。

入園するとすぐにシダレザクラがあり、見ごろであればどれだけ素晴らしいだろう…と想像しながら、歩を進めました。

特別講師の上田良就先生のガイドにより、大きな池の周りを、様々な動植物を眺めながら散策しました。見ごろであったアジサイの美しさに思わず写メを撮り、緑の美しさを感じ、東京のど真ん中にありながら自然に触れることができました。

次に向かったのはランチ。「イタリアンダイニング イワクラ 神田」の店内は大正時代末に建てられた洋館の民家を改装したそうで、アンティークな雰囲気を醸し出していました。食いしん坊の私が一番興味をそそられたスポットです。今回はJWTC貸切で、更に飲み放題にさせていただいて、皆おいしいお料理とドリンクに大満足。「既に打ち上げみたいね」とおっしゃる方もいたほど盛り上がりました。私も大満足！

食後は、国指定重要文化財「旧岩崎邸」を訪問。洋館と和館があり、いずれも見事な建築様式を目の当たりにし、驚きの連続でした。当日は洋館でミニコンサートが開かれており、優雅な雰囲気が漂っていました。とても素敵な空間で、個人的にも参加してみたいと思いました。

最後に訪れたのは「深川江戸資料館」。多少、駆け足の見学ではありましたが、情緒溢れる江戸の町並みが再現されており、昔の生活風景を思い浮かべながら、巡りました。

その後、下町ドライブをベテランバスガイドの大里さんと共に楽しみました。大里さんは話し方が絶妙！“女性版・綾小路きみまろ”のような軽快なしゃべりで、私たちが惹きつけ、ガイド業をする方には大変勉強になったのではないのでしょうか。このベテランガイドさんと回れたことが、今日一日を楽しめた理由の一つだと思います。

今回は、いつもいる東京の、別の顔を見ることができて、とても楽しかったです。都内をバスで巡ることもそうないし、なかなか一人では行かない場所だったので、本当に有意義に

過ごせ、良いスポットを教えてもらったなという感じです。これも、JWTCに参加させて頂いているメリットだと、ありがたいと思います。この季節、庭園は緑に溢れ、とても爽やかで心地よい空間でした。まさにヒーリングスポット！ 次の機会には、今回参加できなかったメンバーの方もぜひ体験して頂けると良いなと思いました。 橋本かおり 京王プラザホテル

東京の庭園をご案内できてよかったです。

六義園のガイドをした上田さんは「毎週月曜日に日比谷公園のカレッジで緑の相談」を受けていますので、花や庭木の相談をぜひ！ TEL 03-5532-1306

長野 久絵 (財)東京都公園協会

◆参加された皆さんのご感想◆

- 六義園には今回初めて入園しました。こんな近くに緑の公園があることに感激しました。ぜひまた来たいです。 伊藤 和江
- 東京は高層ビルの街というイメージ。その街の中に豊富な自然名勝。東京に来て地下鉄での移動がほとんどだったので、バスで巡るコースはとても楽しかったです。東京は魅力的な街でうらやましく思います。 草次 昌子
- 初めて参加させていただきました。大変楽しくあっという間に時間が過ぎました。もともと植物には興味がありましたので、六義園でのご説明はとても面白かったです。 増田 由美子
- 都内観光をすることはあまりなく、近場でも十分楽しめることができました。特に岩崎邸のちょっとしたウンチクを学ぶことができたことは充実した1日で良かったです。(ビジター)
- 大変楽しい会にお誘いいただきありがとうございます。内容の濃いツアーと先輩方のお話、そしてガイドさんの名口調……本当に勉強になりました。(ビジター)



■お知らせ■

この3月に、会員の鈴木光子さん(元スイス政府観光局次長)が翻訳された本が出版されました。

『いとしのエラ』

エラ・マイヤールに捧げる挽歌

著者 アンヌ・ドゥリア

訳者 鈴木 光子

出版社 BOC出版

定価 本体1,500円+税

ISBN978-4-89306-176-8



20世紀最高のスイス人女性冒険写真家エラ・マイヤール。生きることは何かをアジアの哲学を通して追求し続けた行動の先達。その最晩年を通し、介護される人の尊厳と品格を、語り部アンヌ・ドゥリアが言葉を紡いで伝える感動の詩文です。

日本語版刊行にあたり駐日スイス大使ポール・フィヴァ氏が献辞を寄せ、スイス・プロ・ヘルヴェティア文化財団の後援を受けました。

この本に出会って10年がかりで翻訳出版を実現したという鈴木さんの力作で、とても美しい言葉で翻訳されています。ぜひ一読ください。

*書店で入手しにくい場合は、下記(鈴木さん宛)にFAXまたはメールにて直接ご注文ください。

鈴木光子 〒156-0043 東京都世田谷区松原 1-56-23-513

TEL/FAX 03-3328-9330

E-mail: romandie.suzuki@nifty.ne.jp

*JWTC会員の方には20%割引の1,200円でご提供とのこと。

クロネコ便料金160円を含めた合計1,360円を切手などでお支払いください。



(多 様 性) ダイバーシティ について

坂本 友理 (株)ジェイティービー

安西大先輩からご指名をいただきました。JTBの後輩として、まだまだ未熟であるがゆえの叱咤激励ととらえ、緊張しながら筆をとらせていただきます。

私は、現在ダイバーシティ推進という、多様な価値観、多様なアイデアを受け入れ、社員一人ひとりが能力を最大限発揮し、企業価値を高める経営戦略であることを、グループ内に浸透させる仕事を2007年度より担当しております。

外資系企業では、10年以上前からダイバーシティ戦略を既に導入し、女性の登用、生産性向上に成功している企業もあります。国内企業は、ここ2～3年加速的に導入し始め、まずは女性の活躍、登用を視野に入れ、国内企業ならではのモデルの定着化、経営の可視化に各企業担当者は日々奮闘しております。

JTBグループがダイバーシティ推進をスタートした背景は、2006年度の新経営体制からであり、マーケットの多様化、グローバル化に対応していくためには、多様な人財が不可欠との理由からです。

実態はどうでしょうか？

店頭を中心とするところは、確かに女性は活躍しています。JTB首都圏には現在11名の女性支店長もおります。ただし、女性に適している業界といわれながら、経営層にはほとんどいないのです。

入社時点では、男性より優秀と言われている女性ですが、入社後、その影は薄んでしまいます。男性に比べて経験の少なさもあるでしょう。会社のシステムがまだまだ不十分なこともあります。20～30代の女性社員に、今後のキャリアについて聞いてみると、「働き続けたいけど、近くに目標となる先輩社員がいない、

残業が多い現状の仕事をずっと続けることに不安がある」との声が聞こえてきました。

現在、男性中心のいわゆる長時間労働から脱却するための見直し策や女性自身のキャリア意識醸成に関する施策を展開し、課題解決につなげています。

男女雇用機会均等法の制定や添乗緩和などなど、「昔」に比べれば随分と働きやすくなったと感じていますが、次なるステップが必要不可欠です。JTBグループでは、自ら課題を認識し、その解決に向けて主体的に行動できる人財(自律創造型社員)が求められており、リーダーシップのとれる女性社員が多く輩出できるよう、経営層(役員、部長クラス)に理解をいただきながら働きがいのある会社を目指して努めてまいりたいと思います。

JWTCとの関連でいうと、20周年記念で講演をいただいた元IBMの内永ゆか子さんは、日本のダイバーシティ推進の牽引役で、現在ベルリッツのCEOの傍ら、「NPO法人J-Win」の理事長で、私もこの2年間ご教示いただいています。また25周年記念講演での武石恵美子さんは、当時のニッセイ基礎研究所から、現在法



ガンガラーの谷 “マングローブは歩く”



琉球舞踊の人たちと(前列中央が坂本さん)

政大学准教授となり、“ワークライフバランス”を研究するにとどまらず、次世代育成にも力を注がれております。講演者選定においても、JWTCの先輩方の先見の明に改めて脱帽いたします。

話は一変しますが、性格に似合わず堅苦しい仕事をしているおかげで(?)、2カ月に1回の割合で旅に出ないと体がうずうずしてきます。最近では、6月に沖縄に行つてまいりました。

沖縄は年1、2回訪れますが、毎回変化があり、魅力的なデスティネーションになってきました。おススメは「ガンガラーの谷」。南城市(南部)に位置し、50万年前に遡る鍾乳洞と古代人の居住跡をガイドの案内で見学することができます。リゾートホテルもハワイの海外などに引けをとらぬハードとソフトが備わってきて、海外からのお客様も増えてきました。そして、何ととっても、現地の関係者の地元を愛し、明るいおもてなしで訪れる人を迎えてくれることが、リピーター化につながっていると感じています。

観光(素材)の多様性も時代と共に変貌を遂げており、私たち業界に携わる者も負けてはいられないな～と思いました。

最後はこじつけになり、失礼しました。次回は、No.396の二宮由紀子さんにバトンタッチしたいと思います。

★新入会員紹介★

会員No.418

田中 睦代 (株)メキシコ観光

はじめまして。

この度皆様のお仲間に加えていただくことになりまして、誠にうれしく思っております。

メキシコ・中米のランドオペレーターで早20年(うち4年弱は現地事務所勤務)、すっかり性格もラテン的になってしまいました。

皆様にご迷惑をおかけしないように、一緒に楽しませていただきたいと思っております。

どうぞ今後ともよろしくお願ひいたします。

背が高くガタイがいいので、ぱっと見、怖そう(らしい)ですが、嗜み付きませんので(笑)、どうぞお気軽に声かけてください。



会員No.419

増田由美子 日中平和観光(株)

入会をご承認いただきありがとうございます。

私は大学卒業後、日中平和観光に入社し、転職することなく20年以上勤務しております。長年の勤務は良い面もございますが、慣れは人に成長をもたらさないのではないかと昨今痛感しております。JWTCへの入会は、たくさんの先輩方よりいろいろなお話を伺えるチャンスだと思っております。しかし入会に際し、いろいろな面で緊張もしています。この緊張感も楽しみに変えるくらいの気持ちでお世話になりたいと思っております!!

プライベートではサッカー観戦が大好きで、楽しんでいます。これからどうぞよろしくお願ひいたします。



〈第2回勉強会報告〉

北京友誼賓館ひとり暮らしで考えた女性の生き方

日 時：平成21年7月2日（木） 11：40～14：00

講 師：小池 晴子氏（元JWTC名古屋支部会員）

会 場：キャッスルプラザホテル

出席者：会員11名 ビジター3名 計14名

1987年、JWTC会員としてデザイン博覧会等、名古屋で活躍された小池さんは、日本観光通訳協会会員として翻訳業を営まれ、観光通訳、海外旅行旅程管者を経て、1986年より東邦学園短期大学講師、国際プログラムを担当。1993年より5年間、北京連合大学旅游学院にて「日本語」と「観光学」を教えられました。

2006年に中国で出版された著書『にほんごによるペキンあんない』は、中国で日本語ガイドを目指す方のバイブルのような本ですが、著作権を出さないため、勝手に手直しされたり、コピーが闇に出てお困りだとか。日本でも出版されれば、とても役に立つと思うのですが、非売品。とても残念です。今年2月に『中国に生きた外国人 不思議ホテル北京友誼賓館』を出版され（皆さんもぜひお読みください）、ますますご活躍です。

中国での一人暮らしや係わった人々を通して、小池さんは「自立した女性とは、“何かを超えて、ポリシーを持っている人”。超えるとは、“年齢を超える。いくつになってもやりたい事をやる。国籍を超える。どこへ行っても生きていける。ジェンダーを超える。性別にかかわらない。既成概念を超える。常識にとらわれない”こと」を学んだそうです。

さらに、日本人女性の場合、子育て・親の看護・夫育ての三つの役割を終えて平均寿命の86歳まで、どう生きるか。人生の「再生」ととらえ、自分がどう生きたいかを考える必要があると、問題提起されました。

女性の自立には様々な形があると、改めて認識しました。また、名古屋支部のOGに大変素晴らしい方がいらっしゃると知り、励まされました。足元にも及びませんが、先輩方を見習い、現役としてJWTCを盛り上げて行きたいと思います。

狩野知保 HIS



バラが笑いかける庭

～『婦人画報』8月号（p.250～255）をご覧ください～

JWTCメンバーの宮下奈緒子さんのお宅の庭が紹介されています。誌面には“宮下さんの庭で息を吹き返した、ベルギー大使館ゆかりのバラたち”というフレーズとともに、なんと美しく、香しいバラの数々、バラの庭にすっぽりと囲まれてご主人、愛犬と穏やかに過ごしている宮下さんの様子などが紹介されています。

バラの庭づくりに専念するようになったエピソードなども掲載され、この夏必見です。



□総務部□

- 年会費納入状況について
- 30周年協賛金報告

□広報部□

- ニュースレター Vol.29 No.1 を4月末に発行
- ニュースレター Vol.29 No.2 は7月末に発行予定

□事業部□

- 第1回勉強会報告
- 入会見込み者への対応策

□会員部□

- 新入会員 # 419（日中平和観光 増田由美子様）
- 親睦会報告
- 会員数：6月16日現在 66名

□30周年プロジェクト□

- プロジェクト活動プラン
- 講演者候補案

■30周年行事への協賛のお願い

本年2月に会員の皆様に協賛のお願いをしておりますが、随時受け付けておりますので、引き続きご協力をお願い申し上げます。

協 賛 金 一口 5,000円（何口でも可）
銀行振り込みにてお願いいたします
銀 行 名 三菱東京UFJ銀行 小岩支店
口座番号 普通口座 1772383
口 座 名 日本旅行業女性の会
会計担当 本多美知子

■協賛ご協力者（6月16日現在） ※敬称略

温かいご支援を心より御礼申し上げます。

- 1口：高山澄子、近藤多津子
- 4口：荒井喜子（アイ・プロ）

※アイ・プロ 荒井様は、ニュースレターの編集を長年にわたりご担当いただいております。今回、会の活動にご賛同・ご協賛いただきました。



NHKの朝の番組「おはよう日本」で、「天才の脳の秘密を探る」というミニ特集をやっていました。将棋界の天才の一人である羽生善治さんの強さの秘密は「直感力」にある、と考えた理化学研究所の博士が、羽生さんが将棋をしている時、脳のどの部位を使って瞬時に戦略を考えているのかを、最先端のMRI

を使って検証するというものです。

実験が始まり、最初に動き出した個所はアマチュアとほとんど変わりません。しかし実験が進むにつれ、アマチュアの人には見られない部位の変化が見られました。そこは脳の上部から約6センチほど下の所。ここは、過去の経験に基づき判断する部位だそうです。羽生名人が次の一手を即座に判断する「直感力」は、今までに体験した数多くの勝負の積み重ねから生まれるのかもしれませんが。この続きは近日放送予定の特集番組で……。

さて皆さん、何か気付きませんか？

長年旅行業界に身を置き、多くの荒波を乗り越えてきた経験豊富な皆さん脳の中にも、この「直感力」は備わっているのです。大いにこの「力」を発揮して、誰も思いつかない、新たな一手で業界を元気にしてゆきましょう。(Y)

